

# 社会教育委員ニューズレター 第2号

発行 佐賀県社会教育委員連絡協議会  
事務局 佐賀県文化・スポーツ部まなび課内

10月26日に開催された社教委連  
正副会長・理事会の主な協議内容は  
次の通りです。

## 社教委連第2回役員会

### 〇合同研修会について

・12月2日の研修に関しては、社会  
教育委員としていろんなことを知  
らないといけない。子どものこと  
を学ぶ良い機会になる。

・補助金や県公連との抱き合わせで  
はなく、社会教育委員としての方  
向性や目標、位置付け、推進がで  
きる研修会をやるべき。予算がな  
いのであれば、集める方法を考え  
えていくべき。

・市町の社会教育委員の会議でも「今  
のままでもいいのか？」と疑問視さ  
れた。研修の機会も少なく意見も  
言えないため、力量アップのため  
にもこの取組は続けていくべきだ。  
・市町の中で社会教育委員の位置付  
けは軽くなっている。

会長) 社会教育委員の体制について  
は、第3回社教委連の会議で「平  
成28年度の課題」として、継続し  
て議論していきたい。

### 〇ニューズレターについて

・市町から社会教育委員本人にまで  
届いていない。

・首長や教育長にも読んでほしい。  
・市町もいろいろやってくれている  
がすれ違いが多く、これを使って  
話し合いをしたい。

・会議が年1〜2回では無理がある。  
地区の会議でニューズレターを基  
に話し合いたい。

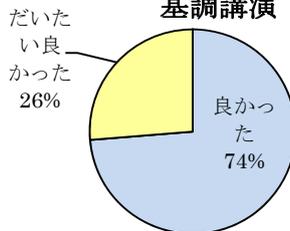
会長) 市町会議の仕方、レベルアッ  
プの取組のため、ニューズレター  
での悩みごとや困りごと、他の市  
町の取組などの情報紹介は会議の  
参考になる。

↓  
各市町から会議開催情報の提供  
をお願いします。開催情報をいただ  
ければ、可能な限り事務局が情報収  
集のため傍聴に出掛けて行きます。

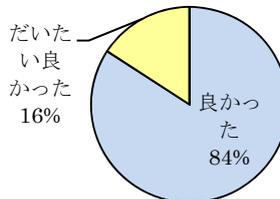
## 社会教育委員実践研修会

12月2日に、佐賀県立生涯学習セ  
ンター(アバンセ)ホールで、子ど  
も自身が危機を乗り越えていくため  
の出会い・体験〜大人から学ぶ、子  
どもから学ぶ〜をテーマに、佐賀県  
公民館連合会と合同で研修会を開催  
し、76名の社会教育委員が参加した。

基調講演



インタビューフォーラム



【自由記述…一部抜粋】  
〇子どもたちのために何ができ  
るか・何をすべきか。

・気づいた大人が少しずつ力を出し  
合える環境づくりが必要。  
・子どもの体験活動は、子ども自身  
の体験の場をつくることも大事な  
一方で、それを理解してくれる大  
人の教育・社会教育も必要。  
・子どもの世界に縦社会を取り戻す  
ため、地域行事の復活、集団登校  
等を行う。

・子どもの目線に沿った活動とは何  
かをじっくり考えていく。

・一人でも子どもが参加できる居場  
所づくり・たまり場づくり。

・子ども同士の遊びや体験の大切さ  
を保護者へ呼びかけることが大切

・自分たちの地域の現状を知り、理  
解することが一番。理解すること  
で課題が見えてくる。その課題に  
対して地域の中で私たちに何がで  
きるかを考え、行動を起こすこと  
が大切。

・子どもに関係する団体のつなぎ役  
として広く活動を支援する。

・子どもはスポーツクラブや塾通い  
で忙しい。友達と遊ぶ機会が少な  
く、人間性の育成に不安を感じる。

・イベントを計画しても、なかなか  
子どもが集まらず、集まっても友  
達と一緒にしか参加できない子ど  
もが多い。

・自由と個性ばかりが強調されてい  
るのではないか。他人の人権にも  
思いを馳せるような活動をするこ  
とも大事である。

・体験が少ない子どもたちが大人に  
なってリーダーとして育つ人がご  
く少数になっていく。先細りがと  
ても心配である。

県内市町社会教育委員の会議の委員構成の調査結果

平成27年11月1日現在

委員総数	性別		男性				女性				男性				女性									
	男性	女性	30歳代以下	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代以上	30歳代以下	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代以上	2年未満	6年未満	10年未満	16年以上	20年以上	2年未満	6年未満	10年未満	16年以上	20年以上		
191	129	62	5	10	38	41	35	1	3	17	25	16	59	42	14	8	3	3	20	20	16	6	0	0
(%) 割合	68	32	3	5	20	22	18	1	2	9	13	8	31	22	7	4	2	2	11	11	8	3	0	0

調査結果から

男女比では、女性委員の割合は、3割強でした。女性委員が一人もいない市町は1町ありました。年齢構成では、40歳代以下の委員は、10%でした。40歳代以下の委員が一人もいない市町は、8市町もあり、若い年齢層の住民の意見反映が課題とも言えます。

経験年数では、1期（2年未満）の委員が41%、3期（6年未満）の委員は74%でした。反面、20年以上（10期以上）の委員は、数名おられました。

在任年数の制限を設けているのは1市で、「10年を超えない」としていました。

教育委員の会議への出席は、1町のみで、社会教育委員の会議の席上以外で教育長や首長と意見交換ができる市町はありませんでした。

《参考》佐賀県では、各種審議会等への女性委員の参画率40%以上、40歳代以下の委員割合30%以上を数値目標としています。

全国社会教育研究大会分大会参加者の感想（一部）

久保山委員（基山・第6分科会）

「学びを支援する社会教育施設」各地の公民館の取組や悩みについて活発な意見が出ました。昭和21年7月、文部省次官通牒により呱呱の声を上げて69年。社会の絆が薄れ、地域の崩壊が取りざたされる昨今、公民館は、新たなニーズや伝統・文化を育みながら、これからも学びの場を提供していくことが、大切な役目であると感じました。

百田委員（鹿島・第5分科会）

「地域活動を充実させる社会教育委員の在り方」

社会教育委員の会議や委員個人の活動成果の発表、それを受けた活発な議論に参加する中で、行政と社会



全国社会教育委員表彰（眞子雅允氏：小城市）

教育委員のそれぞれの役割をどうとらえていくのか。社会教育委員として何をなすべきなのか。さらには、今、社会教育に求められているものは何かについて考えさせられる研修会となりました。

九州ブロック社会教育研究

大会福岡大会

期日：平成28年11月10日～11日  
会場：福岡国際会議場（福岡市）

主題：人・地域を活かす社会教育の学びから育みへ 地域の力を高めよう

本県から「地域づくり」分科会の人材育成の事例について発表することになっています。

社会教育委員の会議で人材育成に関わる取組をされている市町の情報を事務局までお寄せください。

全国社会教育研究大会千葉

大会

期日：平成28年10月27日～28日  
会場：千葉県文化会館（千葉市）

主題：学び合い 支え合い 高め合う 社会教育の創造

※こちらの発表も募集中です。